

「利根川水系鬼怒川河川整備計画（原案）」に対する公聴会

日 時：平成28年1月17日（日）15:30～15:50

会 場：①国土交通省関東地方整備局下館河川事務所

発言者：公述人6

私は、筑西市の■■■と申します。本日は、よろしくお願いいたします。

消防団という立場で災害に向き合った経験から、お話をさせていただきます。

まず、関城地区橋本における堤防の当時の状況です。

これはうみつけに記者さんが参りまして提出したものであります。

写真の方から送っていきます。これがその当時の写真であります。

テレビ、ニュースでも映像が流れましたので、ご存じの方も多いと思いますが、堤防の上部の舗装の亀裂から水が吹き出している状況を確認いたしました。

この写真がそうです。これは、橋本地内の富士宮球場の西の堤防であります。

その現場は、冬場になりますとその他火災が頻発する箇所でもあり、消火に際しては堤防を乗り越えてポンプ車の中を中継を行い、河川敷の火点まで水を送るんですが、河川敷の幅が広いため中継を行うのにはかなりの、幅が広いため消火活動をするのが非常に困難な場所であります。

普段はそれほど遠い場所にあるはずの川の流れが、すぐ足下まで迫り堤防の天端から水が吹き出しているという光景は非常に恐怖を感じました。

団員のこの写真は見回りに早朝4時から5時の間に行った時の写真であります。この団員の連絡によって私が見に行ったところ、水の吹き出している色なんですが、私らは消防団で水防訓練を行っていて水の色についてはものすごく認識しているつもりで団員には声をかけて濁ってないか透明だかということをは話しながら車で向かって確認したところ、まだ、水は濁ってなかったんですが、堤防のぎりぎりまで水が迫ったときは本当にこんな状況を見たのは生まれて初めてでした。

その状況を確認した後、直ぐに市役所係等に連絡をしまして、これは相当な危険性があるのではないかと思います。避難指示を出されるようお願いをして、避難指示が出されました。

住民の避難誘導をその後行いました。400人を越える住民を近隣の小学校へ避難させたわけですが、避難させる側もまた、避難する側も相当な負担を生じます。特に堤防上で水が迫る状況を目の当たりにしていた自分の危機感や恐怖感は例えようありません。設備を過信してはいけないと十分認識しておりますが、堤防という防災設備に対する信頼というものは住民の避難誘導を行うに際しても精神的な余裕を生み、二次的な被害を減らすことが出来るのでは無いかと期待しております。

また、無堤防であった船玉地区において川からあふれた水により道路に堆積した土砂を消防団がポンプ車による放水、団員が一人一人泥だらけになりながら、放水清掃する作業を行いました。

復旧に当たる住民やその手伝いで集まった多くの住民が目の中の惨状に絶句している状況を目のあたりにしました。写真出します。このような状況のなかですね。

また、道路の両側にこういう状況のなかに、やはり手伝いの方々がたくさん来まして、両側に車を駐車する車両がたくさんありまして、どこから手を付ければ良いのか解らない状況のなか、それが精神的に追い詰められ、現場では無用の諍いも多く生じておりました。

災害は、物理的な被害をもたらすだけでなく、人々の心までも壊してしまうものだと改めて実感させられた光景でした。

ポンプ車の水で川へと押し流される大量の土砂を見ながら、この場所に水を防ぐためのなんらかの設備が整えられていたらと強く悔やみました。

消防団の副団長として、関城地区の分団員及び150名の指揮にあたったわけですが、それぞれの団員は使命感を持って必死にがんばってくれました。

そのおかげで、逃げ遅れる住民を出す事無く、住民の生命を守ることが出来ました。

やはり避難しない方もおりまして、朝4時から5時の間に団員が一体となって救助活動したのも事実であります。

その救助も水が迫ってましたので、はしごをかけて、担ぎ上げるような形で数名の方を救助しました。

しかし、それは同時に150名の消防団員を危険にさらしたという事もあります。消防団員である以上、団員一人一人その危険を承知したうえで防災活動をしています。

もちろん本業がありながら仕事を休みながらの作業活動です。しかし、私自身道路が川になってしまっている状況で、避難を拒む老人を担ぎ上げながら怖くなかったと言えは嘘になります。

たくさんの団員の命を預かりながら、又、その家族に対する責任を負う立場として堤防というハード面の整備で回避できる危険があるならば、それに越したことはありません。

防災というのは、堤防などのハード面と我々消防団といったソフト面それぞれの十分に機能しはじめてなし得るものです。住民の生命財産を守るために、何が最も有効なのかということを考えたときに、今回の整備計画は是非とも推進していただきたいと強く願います。

先ほどから写真をお見せしていますが、この写真にはかなり水が引いた時なんですけど、床上、その写真どこにあったっけな、この赤ラインの所まで水が参りました。

家財道具はもちろん、ほとんど水浸しになって大変な思いを、家族一人一人が大変な思いをしながら賢明な作業にあたったわけです。

この写真をご覧ください。これが船玉地内の現状です。

以上が私からの意見となります。どうもありがとうございました。